

タイの高校生が芦別高校を訪れ、異文化の相互理解を深める

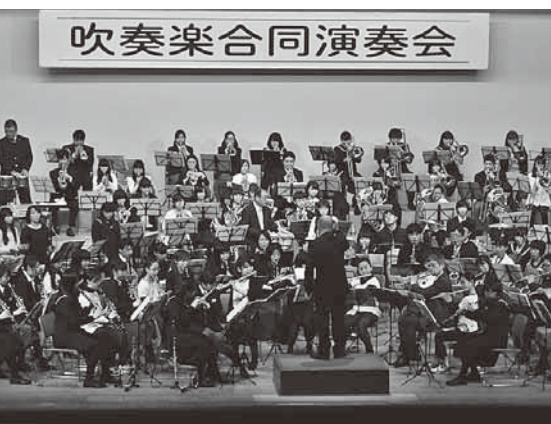
2月3日、国際交流研修旅行で北海道内を訪れているタイの高校生が芦別高校を訪れ、文化交流会が行われました。これは、北海道観光局を通じて同校が受け入れたもので、タイ東北部にあるベンジャママハラート高校の生徒24人と引率の教師6人が訪れました。

当日は、タイの高校生が授業参観などを行った後、体育館で芦別高校生徒会が企画した文化交流会が行われ、芦別高校吹奏楽局が歓迎の演奏、続いてタイの高校生が伝統的な民族舞踊を披露したほか、節分の豆まきや福笑いなど日本の文化体験などで懇親を深めていました。



青少年健全育成市民の集いと吹奏楽合同演奏会が開かれる

吹奏楽合同演奏会



2月5日、芦別市青少年健全育成市民の集いと吹奏楽合同演奏会が市民会館で開催されました。

健全育成市民の集いでは、スポーツ、文化活動で全道、全国大会に出場した児童、生徒合わせて2団体、14人を表彰したほか、「青少年の日」作文と「青少年育成運動」啓発標語入選者の発表が行われました。

引き続き、星の降る里ウィンズバ

ンドプロジェクト主催による吹奏楽合同演奏会が開催されました。芦別小学校スクールバンド、芦別中学校、赤平中学校両吹奏楽部、芦別高校吹奏楽局、芦別市民吹奏楽団が出演し、それぞれ演奏。最後は5団体、総勢107人による、「アフリカン・シンフォニー」が演奏され、会場に詰めかけた皆さんは、迫力ある演奏に盛んな拍手を送っていました。

「いじめ根絶」生徒一人ひとりが考える。芦別中学校で全校集会

2月10日、芦別中学校で「STOP（ストップ）いじめ」全校集会が開催されました。これは、いじめについて、生徒一人ひとりが考え、取り組んでいる活動の一環で、生徒会が主体となって開催したものです。

集会では、1月25日に市役所で開催された芦別市仲間づくり「子ども

会議」への参加報告の後、全校生徒が20のグループに分かれて話し合ってきた「いじめ防止」の対策を発表。最後に「一人一人が負けない心を持ち、自ら『いじめ』を止める勇気を出す」との宣言をまとめ、生徒の皆さんは「いじめ根絶」の気持ちを新たにしていました。



児童センターまつりで、子どもたちがゲームなどを楽しむ



2月18日、児童センターまつりが児童センター（子どもセンターつばさ内）で開催され130名の子どもたちが参加しました。

子ども同士が交流を深め、冬の日を大いに楽しんでもらおうと、毎年この時期に開催されており、今年で14回目。

会場内では、射的やお宝フィッシング、ストラックアウト、たこやき

など、子ども縁日風のコーナーがつけられ、子どもたちは目を輝かせながら会場内を所狭しと駆け回っていました。また、フリーマーケットもひらかれ保護者も子どもたちも楽しむ姿が見られました。

最後はピンゴゲームで持ちきれないほどの景品を手にして満面の笑みを浮かべるなど、楽しい一日を過ごしていました。